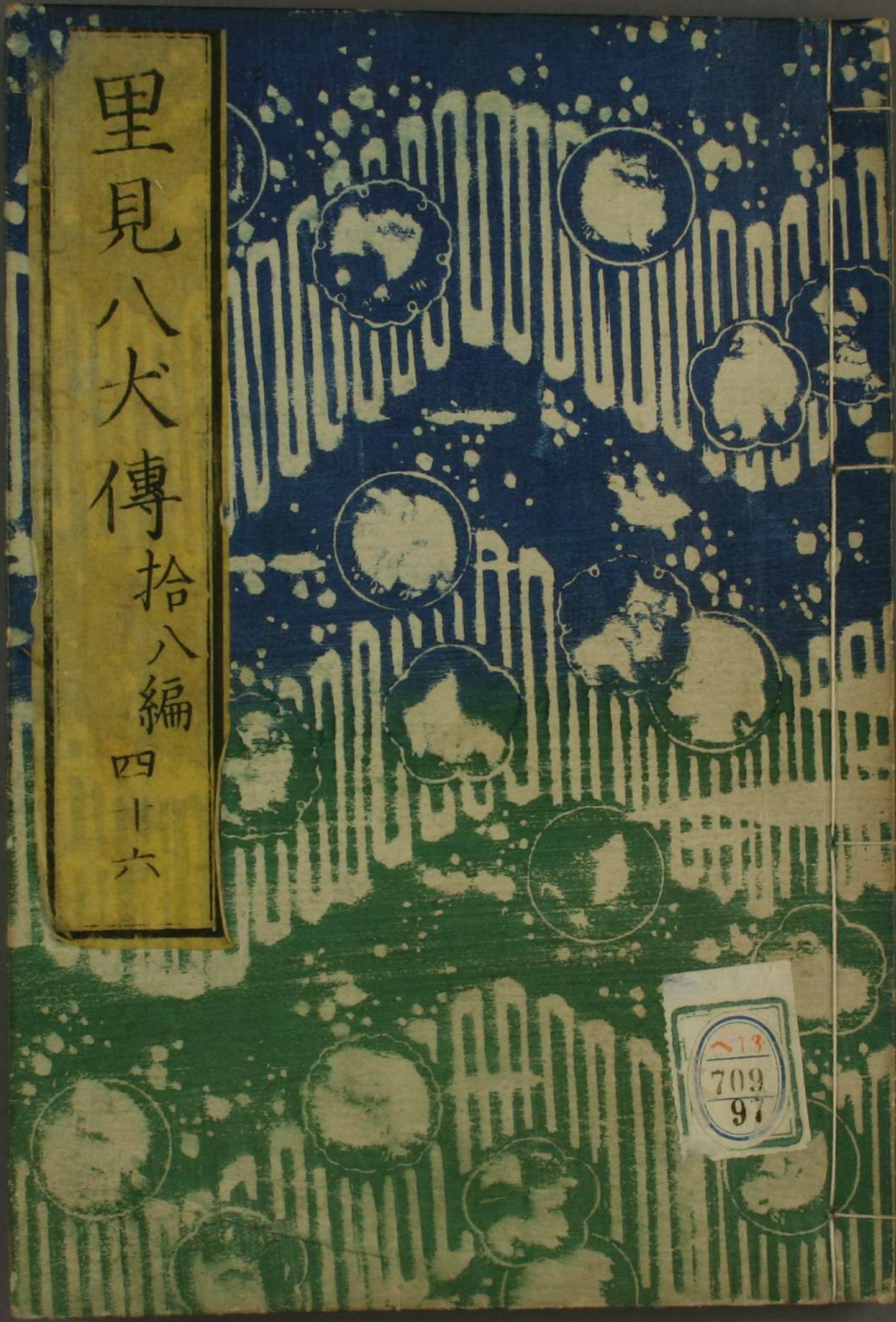
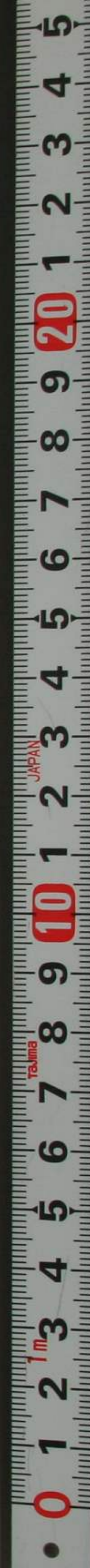




里見八犬傳 拾八編 四十六



713
709
97



曲亭馬琴著

明治三六年十月九日 講求

第十八輯

八犬傳

東京名山閣版

遠門 13
號 709
卷 97

名山閣

八犬傳第九輯卷之四十六簡端附言

本編の題目の先板卷の四十五までの總目録の下小風く附出せしめしを看官の結局まの趣を知らせしむ欲あり僻所為之彼六回の當日腹稿の大槩を擧ぐる

其後本編を編るふ及びて豫思いより長らるる上とせざる然ども一卷毎小定數ありて作者の自由お做し加されれば已とせざる一回を整理て或は上下或は上中下と二回二回分ちて其數お合せたり抑一回を整理て二回二回お做さるとの唐山の稗史小説ふおの例る。只源氏物語お若菜の上下ありといへども本傳の源氏物語の専ら唐山の稗史お淵の元自文漢堂の性急お羊冊編ト畢れが隨て奪ひ去りて淨書瀾人のおお遊興を故お後よ至りて不都合あるとせざる先刊刻する所の五卷を發販せんとせしむるは這簡端の餘紙お事情を畧記しての其責を塞ぐ而已

天保十二年辛丑秋長月之吉

菘笠漁隱



南總里見八犬傳第九輯卷四十六第百七十回以下再出總目錄

○卷之四十六 第百七十七回

一 顆智玉途懲一騎驕將 四個保質反捉兩個保質

同卷 附録目 此段不釐回 但有附目已

建柴道場毛野謁守如墓 湯嶋茂林道節破三隊敵

○卷之四十七上 第百七十八回

有種雪恥復歸御黨 大水陸濟度眾鬼

○卷之四十七下 附録目 此段不釐回 但有附目已

里見諸將士凱旋稻村城 安房侯博愛賑隣國窮民

○卷之四十八 第百七十九回上

照文歸東房總多福 東西和睦兩國開津

同卷 第百七十九回中 附録目

義成面十一敗將 助友受秘封一匣

○卷之四十九 第百七十九回下 附録目

成孝全孝別故君 孝嗣仗義辭舊主

○卷之五十 第百八十回上 附録目

一 姬一僧死生等榮貴 孝感力藝詠歌賀奇異

同卷 第百八十回中

義成重賞功臣妻八女 初段

同卷 第百八十回下

義成重賞功臣妻八女後 信隆還任舊城免罪過

○卷之五十一 第一百八十勝回上

狐龍貽化石、大蟬脱 八行反壁八行傳十世

同卷 附録目

此段不釐回 但有附目已

信隆宗盈古江逢孝嗣 政木大全論辨引和漢

○卷之五十二 第一百八十勝回中 附録目

延命寺義成賞牡丹花 富山巖念成見遺題歌

○卷之五十三上 第一百八十勝回下 附録目

犬士退隱樂天命 諸將得失備其尾

○卷之五十三下 回外刺筆

頭陀話説枕中四十八城 稗史大成本傳二十八年

通計六回分回附録目共一十五回

先板九輯卷の四十一の簡端の附載回外刺筆の題目の二十七年とあるに去
歳の冬結局大團圓まで編果さす思ひ故之介も作者病眼の障りありて
一稔後れか今改正す。二十八年とあるは只是のまゝ一回と釐して上下或は上中
下と二回二回お做しするより上の如し釐す。一巻一回の條もあつた附録目と
見せし看官の爲に葉お做さんそ其餘の附録目も其巻の端におはさる者ハ
第百八十回の上一姫一僧云々の一回と第百八十勝回の中編と下編云々の二回
と是のまゝ其餘ハ只回を釐して二回二回お做すのまゝ。附録目と云ふは先案後案
同トかゝねど首の六回を幹めて附録目の枝葉するまゝ此彼都合せしものあ
る看官訝り思ふべくも事の所以を識者介也

孰小紋次る。と喚做する。煨煉毎主と資けく相戦ふ。大刀風烈かりければ左右を
敷きも破れぬ。獲莫追隊の頭人。則是犬士一人。名高き大山忠與。折をゆる
舊君先父の怨を復せ果さんと。思ふ勢烈火の如く。馬を縦横に馳融して敵を斫る
と數と知らぬ。又明相清英も千変萬化の術を盡して。堅を摧れ鋭を劈く。其
隊の雄兵一人として。那進退を由らぬ。敵の隊兵も三倍。多勢の爲に殺類さ
る。助友が頼切なる。生入秋。孰をたたく。士卒多く撃捕れて。助友も釘の外に流
て。かちあふ。疾二ヶ所を負ひ。是を思ひけん。百歩足らざる。残兵を引圍む。且
戦ひ且退く。二三町許。水際小敷。枯草を推分け。踏用は。裏面入ると見
る。程。道節。透さ。趕。其馬。疲労。跌。撞と平張。俯。主を
慌む。騎。伏。又。蝨。晋。鞆。を解。捨。て。備。下。馬。程。あ。明相清英隊の兵
們も。推。續。た。趕。逼。り。多。く。只。這。一。拳。助。友。を。捕。ま。え。て。競。ふ。甲。斐。なく。

那敵豫准備あり。這頭の枯草の那方。大隠。措。け。る。快。船。三。艘。あり。關。戦
既。難。我。及。び。助。友。の。殘。兵。等。と。共。其。船。を。乗。り。て。多。く。漕。ひ。江。渚。を
離。れ。前。面。の。岸。に。退。く。道。節。明。相。清。英。等。の。夜。視。も。風。透。り。觀。て。他。之。
と。叫。ぶ。の。趕。も。小。船。を。矢。口。の。津。へ。折。る。敵。の。往。方。を。目。送。り。る。开。が。中。道
節。の。憶。も。太。息。吻。く。舊。の。河。原。へ。退。て。士。卒。と。獎。を。聲。高。く。お。も。れ。兵。每。助
友。奴。の。豫。より。活。路。造。り。て。逃。こ。れ。る。那。奴。の。我。志。を。敵。あ。ら。ぬ。憶。も。定。正。る。王
從。僅。小。二。三。騎。の。ま。矢。口。と。渡。り。果。げ。も。あ。ら。ぬ。我。馬。疲。勞。れ。て。敵。死。に。其
頭。小。敵。の。乘。二。三。騎。の。馬。あ。ら。ぬ。幸。ひ。て。幸。ひ。と。甘。む。と。焦。燥。叫。ぶ。を。
明。相。清。英。左。右。も。急。に。推。林。示。め。且。諫。る。や。大。山。大。人。叫。び。弱。冠。る。我。們。が
詞。亦。く。賢。達。て。意。見。を。舒。る。鳥。海。多。く。釋。迦。は。説。經。孔。子。の。語。道。の。諺。も
似。て。ひ。も。既。小。館。の。御。軍。令。逃。敵。の。追。棄。よ。と。あ。る。御。條。目。を。忘。れ。ぬ。り。決。定。正

主の大人の為不舊君先考の仇と既ふの春高暇中。那人の頭鎧を射く
落して怨を復し。あつひつや然るを又今日の其子朝寧と遠前被て射
事十二分の首尾。飽き敵地を深入る夜を犯し。還ると忘れぬ
甚麼ぞ。言憚りも只是千慮の一失。鉄三省再思む。欲と詞意を
論ず。道は即听々含笑。現われ其理あり。実今日。聞戦は是西館の奉
為也。我私の所以る。定正の敵の魁首。今根と断て。葉と枯らさ。後
又患と做え。然館の御軍令の仁義を旨と。一方。將る者。詔救も
用ひ。所あり。あつと。曩の御軍令と。出され。時我。又館。請。あつて。悠々と。議。稟
あつ。然。字と仁の一字。小泥。も。那。宋。裏。の。故。轍。と。踏。ま。世。の。胡。愈。ふ。る。ん。の。も。あ。れ。も
和殿の意見も亦金玉。今夜と犯して敵地入り。人馬の疲労と思ひ。又助
友。相。似。る。敵。の。援。兵。出。も。来。後。悔。其。里。不。達。か。か。ん。鄙。語。云。云。威。ふる。子。

浅瀬を教らる。我上。あつと。あり。れ。と。いつ。呵。々。と。う。ち。笑。へ。明。相。清。英。秋。ひ。て。弱。冠
る。我。們。の。思。意。を。稟。試。し。海。容。あ。る。公。私。の。幸。入。還。る。各。の。と。い。を。せ。道。節
答。然。と。我。憶。不。妙。真。音。音。鬼。多。單。節。の。保。質。不。捕。入。ら。れ。て。五。十。子。の
城。在。る。る。べ。然。り。と。定。正。城。不。還。ら。他。必。殺。され。且。河。崎。ま。退。れ。く。又。城
間。謀。見。と。り。那。里。の。虚。実。を。観。る。翌。の。早。天。不。推。寄。く。徑。小。城。と。攻。落。して。四
個。の。女。子。を。救。い。合。る。べ。あ。の。女。と。あ。る。ゆ。ゆ。と。い。の。不。明。相。清。英。の。再。談。不。及。び。諾。る
ひ。俱。小。士。卒。を。従。へ。灰。不。見。の。八。日。の。月。の。影。と。燭。小。河。崎。邊。る。故。の。馬。頭。上。不
退。く。程。小。馬。淵。場。九。郎。の。殘。黨。を。首。を。那。這。の。俠。客。野。武。士。の。毎。里。見。の。徳。を。慕
ふ。者。招。か。る。不。走。集。ひ。て。皆。道。節。の。隊。不。附。く。一。夜。の。間。不。道。節。の。軍。威。の。く。壯
也。從。兵。新。舊。ち。合。せ。て。三。千。餘。名。不。做。り。不。け。案。下。某。生。再。説。扇。谷。定。正。を
犬。山。道。節。不。追。逼。ら。れ。て。既。不。必。死。の。窮。難。做。り。と。曩。の。憎。し。と。思。ひ。る。巨。田。新

安房下總を水陸より攻伐るるに急るれば身の危きを防ん為小軍師胤知と
 防禦使忠興と禮儀書を以て水路の勝負を試み天道へ順を祐けて不義の驕
 慢を罪を所以と小兵を以て大敵を克つを以て至れ然るを義成戦ひ自軍を
 馬前ふ命と乞ふとも管領饒みんや人をも身をも思ひぬる小阿容言を執り
 听く死遊莫義成仁君へ安房へ俱一まわるとも御命不及くも疾々立
 せぬればと護従して饒さる定正竟脱る路あり敵一霎時の暇を請ふ腹を
 斫らんと坐と占ると憲儀急推禁めて又叫びて領せ又復目小向ひくゆやう
 既小和殿の稱さる如く安房侯と久実小仁君を人殺して已に利する豈歟
 ひあややあやとて憲君必々頭髻を剪て首級小代人と宣ひ其の義を兼容公ひ
 ねか。と口説を定正囁林めてふ憲儀又よ思へ我管領の大職在りるがら
 然し命の惜りも頭髻を剪て敵小遞與ふ上へ先祖を辱め下へ兒孫を

汚名と傳ふ恥の上の恥るるを只潔く死すふ不如と決れば憲儀聲と頻單て君
 忘れぬ。後昔建武二年冬十二月等持院尊氏將軍鎌倉不在をり時大
 塔宮の御事より後醍醐天皇逆鱗甚しく義貞主と討隊の總大将の
 做され。官軍多く發向と少き等持院殿殿驚に怕れ逆意を證據ふ
 とをみり頭髻を剪て前かみりと錦小路殿と並ぶ當家の御先祖を
 諫めり。只得思ひ入るを以て親姑峯竹下之官軍と數破りぬり。音ふ
 脚運と冊を以て傳へて今の柳營と義貞に至るを以て然る其比那脚頭髻の
 短さを紛えと近習外様の武士も。故意頭髻を短くして威其鬚とせさうと
 一束前と唱へる風俗今改めを信る先蹤非如今の難義の為頭髻を成
 前かせぬとの脚恥辱不似と恥辱ある丈夫大功の細謹と顧大札小讓と評せ
 ぶとのひ古語ある何ぞと思召さるりけ。只任用せぬと説諭し目小向ひく



定正

のり



のり

敗將頭鬚を切て
 みるる首級ふ日
 みるる首級ふ日

請ふと始はじ異いるるねね目めの頭あたまと敵たけけけくく。ささでで悲かなしし請まをららとと听きここをを稠つめ腹はらとと斫きせせるる。我君仁義を旨とあるの軍令小恃るの似たりとのを葉四郎猿八が懐き左右より找み出さず俱お目と諫めなす。小湊主物數ある卑職等が賢達て云云と意見へ鳥計かきくひへも仁も不仁も敵おそよめ他が自殺の嫌ひある生拘りて牽りて由ん今内らヨ翠思まるところのひつ又蝨く身と起して走り蒐ら多く欲せし。目ハ饒さぞ喚禁めく。後卒介も後圖範内との舉ハ軍師大阪主の先見あり我其教も依りて欲を揣るの要るはふと諭して憲儀小答るやう管領みぐる頭髻と前刃て首級と代んとある情願ハ我君仁慈の旨小稱へ其多柱て饒まへ然ども正し照驗るてハ我私小似く影護り故ハ和殿とわて由んといと憲儀うち夢て開ハ秋ハたるるが我身あらむハ孰り又寡君小俱して投く不至ら我身も髪皆剃食らむと法師もるとも戦りてまいつての髪を饒してよといくと諄

返まを。目ハ听を頭と掉て不ふ定正主ハ我士卒とて送り先糖と紙と糖あま及およびび手て。怒いかりり。涯はりりるる者もの。恁いててもも異い議ぎ目め小物見もの見み。範内ハ定正主の頭髻を夙く受をりね獲圖ハ這大石と牽立ま。とのをま事ハ勢已へくさる。定正連下ハ嘆息あつ。やとや兎うとと脱だ棄してて引ひ抜ひくく。首く直ちくく。頭髻と弗と剪棄て。遞與まを目ハ受會て。隨即範内葉四郎ハ雜兵一百名を分ち授けり。ゆく定正の送とを。當下葉四郎ハ定正の佩ハ兩刀と請ひ會て身小着させ。去又後圖猿八ハ憲儀の兩刀甲冑と剥脱會て腰索被て牽立れば小湊目の葉四郎を警めつあるさそ。隊の雜兵小分捕の馬を牽せ。主共侶小追立々々河崎る馬頭上を投て還りも程ハ長死河原ハ風寒ハ八日の月の没果て路隔ければ蕉火を作らら。振照さるて連り去向をいせけり。介程ハ定正ハ大石憲儀の意見ハ儘して恥と忍びつ阿容々々と頭髻を剪りて敵ハ遞與ら。辛く命と免れられぬ。

尚停囚（まうとどめ）異なる（ことなる）身（み）寸鉄（すんてつ）も帯（おび）ると（と）う（う）。そ（そ）が（が）依馬（よま）不（ふ）乗（のり）せられ（せられ）敵（てき）の小頭（こがしら）人（ひと）鮎（あゆ）内（うち）葉（は）四郎（しろう）が（が）一隊（いちたい）の士卒（しそ）不（ふ）送（おく）られて（られて）津（つ）と（と）索（さく）ねて（ねて）四（よ）程（じよう）不（ふ）甚（しん）四郎（しろう）も（も）亦（また）隊（たい）の兵（へい）不（ふ）甚（しん）火（か）火（か）作（さく）存（ぞん）く（く）鳥夜（とりよ）を照（てう）せ（せ）る（る）火光（かこう）と見（み）て（て）や（や）下流（かき）より（より）忽（たち）馬（ま）と（と）沂（し）り（り）多（た）快（かい）船（せん）あり（あり）其（その）船（せん）三（さん）四（し）艘（そう）あり（あり）一（いち）艘（そう）毎（まい）不（ふ）環（わん）甲（か）より（より）武者（むしゃ）二（に）三十（さんじゅう）名（な）うち（うち）乗（のり）く（く）或（ある）の（の）船（せん）と（と）推（おし）し（し）竿（さ）と（と）使（つか）ふ（ふ）波（なみ）の上（の）自由（じゆう）より（より）先（さき）不（ふ）找（たづ）み（み）船（せん）の内（うち）より（より）忽（たち）地（ち）不（ふ）聲（こゑ）と（と）り（り）其（その）里（さと）不（ふ）各（かく）騎（き）馬（ば）の（の）一（いち）人（ひと）我（われ）君（きみ）扇（あふ）谷（や）殿（との）不（ふ）と（と）り（り）ま（ま）ま（ま）と（と）り（り）倭（わ）兵（へい）の（の）巨（こゝろ）田（た）新（しん）六（ろく）郎（ろう）助（すけ）友（とも）と（と）り（り）と（と）名（な）告（つ）ぐ（ぐ）と（と）り（り）空（そら）く（く）定（さだ）正（まさ）の（の）歡（か）し（し）不（ふ）恥（ぢ）と思（おも）ひ（ひ）馬（ま）を（を）駐（とど）め（め）見（み）え（え）り（り）原（はら）来（きた）助（すけ）友（とも）恙（や）も（も）な（な）し（し）後（ご）我（われ）を（を）汝（なんぢ）の（の）援（えん）ふ（ふ）より（より）那（な）大（だい）山（さん）道（だう）節（せつ）の（の）田（た）を（を）辛（つら）く（く）免（ま）れ（れ）大（だい）石（し）憲（けん）儀（ぎ）と（と）僅（わずか）小（せう）二（に）騎（き）末（まつ）身（み）路（ろ）を（を）又（また）敵（てき）あり（あり）と（と）告（つ）ぐ（ぐ）と（と）り（り）助（すけ）友（とも）の（の）軀（かみ）も（も）船（せん）より（より）立（た）出（だ）く（く）主（ぬし）の（の）身（み）邊（へ）より（より）來（きた）り（り）程（ほど）不（ふ）後（ご）れ（れ）船（せん）も（も）皆（みな）漕（そう）着（ちやく）て（て）岸（き）に（に）寄（よ）り（り）つ（つ）扣（ひ）て（て）在（あ）り（り）只（ただ）助（すけ）友（とも）と（と）同（どう）船（せん）より（より）士（し）卒（そつ）の（の）相（あ）従（じゆ）せ（せ）主（ぬし）の（の）後（ご）方（ご）不（ふ）侍（じ）り（り）と（と）定（さだ）正（まさ）見（み）つ（つ）面（おもて）を（を）向（むか）ひ（ひ）と（と）り（り）馬（ま）より（より）下（くだ）立（た）く（く）程（ほど）よ（よ）石（いし）不（ふ）尻（しり）を（を）掛（か）れ（れ）鮎（あゆ）

内葉（うち）四郎（しろう）と（と）隊（たい）の兵（へい）と（と）ち（ち）田（た）を（を）圍（い）んで（んで）七（しち）羅（ら）列（れつ）れ（れ）當（あた）下（くだ）定（さだ）正（まさ）又（また）助（すけ）友（とも）うち（うち）向（むか）ひ（ひ）て（て）奉（ほう）薪（しん）六郎（ろくろう）今（いま）ゆ（ゆ）告（つ）ぐ（ぐ）の（の）面（おもて）伏（ふ）せ（せ）れ（れ）我（われ）那（な）里（さと）見（み）の（の）伏（ふ）兵（へい）る（る）小（せう）湊（みなと）目（め）堅（けん）宗（そう）と（と）り（り）數（かず）百（ひゃく）の（の）敵（てき）不（ふ）捕（とら）縛（ばく）られて（られて）免（ま）る（る）べ（べ）く（く）も（も）あ（あ）ら（ら）ば（ば）と（と）り（り）大（だい）石（し）憲（けん）儀（ぎ）の（の）意（い）見（けん）よ（よ）り（り）頭（かぶ）髻（まげ）を（を）剪（き）り（り）て（て）堅（けん）宗（そう）不（ふ）取（と）せ（せ）且（かつ）憲（けん）儀（ぎ）の（の）我（われ）不（ふ）代（た）り（り）と（と）敵（てき）不（ふ）擒（か）み（み）せ（せ）れ（れ）の（の）う（う）ち（ち）那（な）堅（けん）宗（そう）不（ふ）反（はん）く（く）好（こう）意（い）あり（あり）者（もの）あり（あり）我（われ）不（ふ）従（じゆ）者（もの）る（る）を（を）憐（あは）れ（れ）と（と）り（り）升（のぼ）が（が）一（いち）隊（たい）の兵（へい）百（ひゃく）名（な）許（ゆる）す（す）の（の）う（う）ち（ち）我（われ）を（を）送（おく）り（り）て（て）不（ふ）造（ぞう）れ（れ）も（も）量（りやう）表（ひょう）あり（あり）汝（なんぢ）の（の）諫（い）め（め）を（を）听（き）く（く）我（われ）身（み）單（だん）より（より）ま（ま）ま（ま）と（と）り（り）士（し）卒（そつ）を（を）喪（む）ひ（ひ）と（と）り（り）百（ひゃく）千（せん）番（ばん）悔（く）て（て）及（およ）び（び）汝（なんぢ）の（の）亦（また）何（なに）も（も）と（と）り（り）我（われ）が（が）這（こ）河（が）原（げん）不（ふ）來（きた）り（り）と（と）り（り）那（な）大（だい）山（さん）道（だう）節（せつ）の（の）又（また）兵（へい）を（を）防（ぼ）て（て）身（み）の（の）恙（や）も（も）な（な）し（し）又（また）逢（あ）ふ（ふ）と（と）り（り）我（われ）と（と）り（り）迎（むか）へ（へ）忠（ちゆう）誠（じゆう）感（かん）を（を）あ（あ）ま（ま）り（り）の（の）賞（しょう）ま（ま）へ（へ）と（と）り（り）只（ただ）願（ねが）ふ（ふ）己（おのれ）の（の）志（こころ）を（を）助（すけ）友（とも）の（の）嗟（なげ）嘆（なげ）不（ふ）堪（た）む（む）愀（あは）然（れん）と（と）り（り）と（と）り（り）答（こた）へ（へ）る（る）や（や）既（すで）不（ふ）去（い）の（の）期（き）不（ふ）至（いた）り（り）と（と）り（り）臣（しん）等（とう）が（が）前（まへ）言（こと）不（ふ）幸（さい）や（や）て（て）當（あた）り（り）と（と）り（り）又（また）不（ふ）去（い）の（の）臣（しん）等（とう）が（が）今（いま）宵（よ）の（の）地（ち）不（ふ）在（あ）り（り）と（と）り（り）趕（か）ん（ん）來（きた）り（り）敵（てき）と（と）り（り）防（ぼ）れ（れ）不（ふ）仔細（さいしゆ）も（も）い（い）ら（ら）ず（ず）今（いま）日（にち）の（の）順（じゆん）風（ふう）の（の）異（い）る（る）を（を）柴（さい）浦（うら）へ（へ）斜（しや）に（に）君（きみ）退（ひ）せ（せ）ぬ（ぬ）時（とき）必（かな）ず（ず）河（が）崎（さき）へ（へ）御（ご）船（せん）と（と）

と来りし汝の船りく。益々前岸へうち渡しね五十子の城に還りて。意表と警えん。
奉りて。このを助支答と。否五十子の御城に敵既攻捕りて入替りゆひけり。
く小那八大士等へ一個の兵法未煉の者あり。就中犬阪毛野ハ智術ハ長しとをいふ。
料系御前犬山道節ハ君と軒身り毛野ハ徑ハ衆艦と柴浦ハ漕とをて五十子を
畧りゆひけん。あらん御留守ハ侍る。其田取蘭二るといふて。他を防が
ぬ水路ハ自家の敗軍と耳怯して逃去たる。久臣等ハ隊兵今も猶一千
もひて。後攻とまげれども。御前犬山道節の軍勢の兵と防戦ハ時士卒と夏
く撃せり。思ひのそめて。其甲斐ハ且河鯉の城ハ造らせ。悠而敵の進退ハ那
里の安危と固定り。徐ハ五十子へ還らせ。殊々御失る。御前臣等ハ情
地ハ遠見の士卒と遣りて。君の脱れ来ぬ。道路と視せし。もと風知り。初河
崎ハ憲儀も。那牛馬買賣る。馬哉。足を奪合せ。るふより。元民們起

て立て。内難義我及せぬ。若那日恭微り。道節ハ追撃も。つらむ。欲を添
とも。時後れて及ぶ。む。然らば。臣等ハ援兵のて敵の伏兵小漢們と。較破り。追
走らせ。て必や辱。小逢せ。ま。る。く。り。今ハ千萬のとも。益。卒河鯉の城ハ
俱ハ。あ。らん。の。誤。不。儘。せ。ぬ。ぞ。や。と。言。丁。寧。ハ。諫。れ。定。正。ハ。の。ま。ま。之。恥。之。至。也。
答も。ゆ。せ。む。姑。且。て。公。や。う。量。業。ハ。我。思。ひ。感。て。汝の親道灌と。久。く。遠。離。ハ。家
の。ま。ま。ハ。汝の諫と。听。ぎ。て。あ。の。大。敗。ハ。及。び。不。青。松。の。標。終。始。易。ら。む。今。日。思。戦
再度の送迎。現我家の泥。聚。る。哉。今。より。志。を。更。ゆ。賢。ハ。親。と。侮。と。退。け。そ。
會。秘。旨。の。恥。と。雪。め。む。欲。を。左。中。右。中。も。從。ぎ。ん。也。河鯉。へ。も。と。く。ん。れ。と。公。助。友。鉄
比。美。之。馳。て。定。正。と。請。立。せ。つ。其。馬。を。亦。船。小。乗。せ。て。隊。兵。と。俱。前。岸。へ。渡。り。て。
又。定。正。と。馬。小。乘。て。那。身。も。俱。一。足。の。送。れ。る。馬。ふ。ら。ち。跨。つ。且。隊。の。兵。と。相。從。せ。て。
通。霄。路。次。と。の。死。げ。り。休。題。再。説。の。日。十二。月。八。日。の。曉。天。ハ。烈。婦。音。音。ハ。料。ら。ぬ。



大森屋敷
海の濱
救音七
救音七



堪む。その忝くゆるか。尚暮あ。程もゆる。奴家と俱み入水せ。備舵工のふ倣い
けん其亡骸の這濱邊に流寓する。奴家の徳幸い。身の温り地炕火あ。く
帯さ衣の乾き。其頭へ出て見。来てんと。瞞め。主人の妻。脚羊草履
借受。脚引掛。立出れ。海苔七。女房も。蛾く。来ませ。喃媪。と。喚ぶ。西聲を
歩捨。歩と。めめ。出けり。恁而。音音。單身。残る。夕陽。片光明る。漣を
眺め。安ら。ぬ。肚の裏。思ふ。約莫。今日の水戦。大坂王の謀り。如く。寄隊の
反て。火攻せ。れ。ぬ。し。七。倣い。然。とも。敵の總大将。定正王の。備免。れて
城。還ら。怒。不。無。して。三個の保。質。妙。真。刀。自。と。曳。單。節。の。殺。され。ん。我。身。今。幸。
再生。する。甲。斐。あ。て。那。里。の。潜。入。と。を。ゆ。て。三。個。を。極。合。る。便。直。欲。得。と。胸。の。こ
思。も。尚。思。難。て。計。の。出。所。を。知。ら。ざ。い。ふ。せ。し。と。な。ら。ふ。立。も。得。去。ら。ず。在。り。け。し
程。の。洲。崎。の。方。より。流。れ。る。寄。隊。の。殘。船。一。艘。あり。け。り。是。則。別。艦。を。も。是。裏。の。寄

隊の副将。上杉朝寧の隊の從兵。他們の洲崎の關戰敗れて。朝寧の大山
道節。射。落。され。又。那。每。の。印。東。明。相。荒。川。清。英。も。不。敵。捕。れ。其。他。の。皆。降
す。道節。允。さ。結。紐。を。て。命。を。助。て。推。流。さ。る。其。艦。を。あ。り。け。れ。殘。兵。約。莫
三。四。十。人。あり。他。們。の。今。料。ら。も。五。十。子。近。に。這。浦。の。艦。の。寄。り。と。飲。へ。も。身。の。甘
も。結。紐。ら。れ。て。皆。重。索。と。掛。られ。る。這。容。れ。と。阿。容。と。々。と。城。の。る。え。い。ま。さ。か。も。艦
も。出。も。難。ら。し。一。個。の。老。媪。の。這。水。際。に。立。在。け。り。と。見。出。し。身。兩。三。個。の。老。兵。が。最
面。の。為。の。生。拘。られ。と。辛。く。を。脱。れ。來。れ。り。る。れ。も。皆。這。儘。を。五。十。子。の。大。城。へ。還
子。が。こ。ろ。の。這。索。を。解。て。よ。と。憑。り。音。音。の。見。え。り。て。お。料。ら。ら。る。便。宜。を。得。ら。
と思。心。と。色。あ。い。出。さ。を。艦。の。邊。遣。り。入。立。寄。り。て。左。見。右。見。々。含。笑。て。開。解。と。解
べ。れ。も。倘。連。累。と。せ。れ。ぬ。崇。も。中。の。争。何。の。某。と。流。る。を。大。家。穿。ぬ。否。と。何

おく異口同様示合せ已が非を飾りて俱不許れ城兵等が敬篤に父のゆへに非見
り金大胆と淡しつ暇むが像く眼を睜りてその安らぐ事事をわれ疾其田殿告
知しね諸門の隊配り要緊なるんとおの士卒等心得て走りて二の城門三の城門諸
隊不意と告り當城と與り守る其田取蘭二圓通者孰も駭噪さるん敵の
旗も不見きて落度とる者おのりしと取蘭二罵勵して其隊の小頭人們と
共侶不意と隊配を做し程小城中猛可放火者お守屋より其火發りて又蠅く
城樓小燃ゆる洞裏小敵兵中其兵幾人多と知し胡歩乱行々城兵們を
中る小儘せて研仆さ刃尖鋭く聲高や若們知ぎや里見の軍師大阪毛野が
先鋒の頭人小森高宗十代九豊俊お在りお在りと名告被け相喚りて
四下と靡りて大刀風小暗さる鳥り城兵等ハ敵の多少を知られ右往左往迷
ふて敷る者を多るりける當下里見の士卒們威く正門をうち開き守屋の邊りお

敷る馬の絆と斫断々々馬二三頭牽出して高宗豊俊お跨まれ残れる馬を
焼く怖れて正門の橋と葛直お渡して遠く馳去れ城兵の少度を失を頼れ鬼
馬正門より逃る者多るれ這隊の遂お敗られ浩る処大阪毛野胤智ハ浦安
友勝木曾季元と共に信州三千有餘の隊兵をお那残兵の迹を眼り五十手の城お
近づく程小城内猛可お息劇しく忽馬として起針る兵火と俱小城のくより放馬二
三頭這方を投て馳來ぬると毛野の又蠅く先鋒の士卒お下知して馬を捉駐させ
馳て其身と友勝季元等の騎馬お多諸兵を勧め短兵と急お推寄て城の正門お
乗入るれ非見利金大隊の兵毎も防系由る第二の城門小某等と敵と柱へけり是
より先お列婦音音ハ那殘兵おうち交りて輒く城お入り一時日既お暮され躬方の
頭人高宗豊俊が二千個の隊兵を領て給れ入りしどいお知ねどいお妙真曳子單
節の在処を索めて極いお便りも欲得と速早く給れて深く潛ひ入て這里彼那里

欽とまゐる程小城兵猛可罵諜多。敵既小逆寄しと正門の剛才攻捕られり。那頭
人の名もつとる。安房の軍師大坂とよ然ては這城保ちとけん宅眷を敷きとる疾
退らんと叫びり東西へ走る者をもとられ言向ふくもあざりける。音立日ハ奥へ紛れ
入る程小給事の女房も良賤尊卑の差別をく外面投て感ひせと某るを換と
見々問々遣違して猶奥深く入る途小迷る眉尖刀一棧あり是究竟と令場て
掖も々立ち奥の間男女争ふ聲去ける原る小這城内ハ河堀殿と喚做さ。定正の
継母ありけり。年齡六十許る。式部少輔朝寧の妻と親姑姫と喚做さ。是ハ
此京師も某甲中納言の息せり。定正近曾と下して朝寧ハ妻せける。今茲ハ
十七八ふもやあつむ。同嘗小深徳は徒て立と死ハ蘭奢衣裳の董の臥と死ハ孤絡を
袖ちて冬々の夜も猶暖く夏の日も将涼く。錦の上花を添る樂ハ耽れと日雪
中ハ炭を贈る貧民の情を知らる。三食ハ掛を列ね桂を薪中ハ玉を炊く。幾の侍

め。妻前ハゆり後小従ふ。富貴の身やあれ。今城陷り圍破れて敵ハ入るとつとる。今
恩顧の老黨傳給の女房も何里も在るとりけれ。河堀殿と親姑姫ハ中ハ在る。今
ち對ひ。あゝいせん。とる。いせん。知を共侶す。ち泣て在甘ハ城ハ兵火係り。今
とく左ても右ても免れ。命を今ゆ。惜んや。只ハ儘小刀ハ伏て死天の逆旅ハ相伴
んと。あゝ短刀令揚て念佛唱る。兩聲も細る。心々の歎息を。俱ハ月ハ後放り。
既ハなつよと。えん。りける。有悠。程ハ妙真鬼ハ單節者ハ。裏ハ這城内ハ保管捕
入れ。奥在。一室ハ在り。身ハ真。り。小就て亦心ハ。立日音ハ。上。の。あ。と。思
の。然。ハ。人。ハ。難。て。做。事。も。多。早。一。暮。を。程。ハ。日。黃。昏。時。不。及。び。城。中。猛。可。ハ
噪。起。て。里。見。の。軍。師。ハ。逆。寄。し。と。正。門。ハ。既。ハ。破。れ。ら。れ。と。罵。る。聲。ハ。と。や。え。く。這。保
實。第。ハ。守。の。頭。人。大。石。憲。重。の。家。臣。り。ける。那。朝。時。技。太。郎。天。岳。餅。九。郎。等。ハ。也。
雜。色。奴。隸。も。咸。逃。去。り。其。頭。人。の。在。る。と。り。けれ。妙。真。鬼。ハ。單。節。者。ハ。一。び。ち。ち

驚死一ひの勢も頼も集りて。安危を計るも、曳の軍節が、今や如く今日の
 関戦御方の全勝疑ひも、大坂主の逆寄り来て、城を攻落まわらん。然るに
 我身の出入路廣く、そるりおけり。妙真點頭て、然るに我々の左に、右に、
 河堀殿と喚れぬ。定正主の、妙真君も、及朝寧主の、夫人も、親姑姫も、
 今この世に、おられぬ。おられぬ。おられぬ。おられぬ。おられぬ。おられぬ。
 妙真、這兵乱、那二柱の、老夫人、新夫人、の、志も、わら、我、兩館の、
 御仁、心、不、違、い、ま、り、り、後、
 後の、為、お、つ、か、る、非、如、案、内、を、知、ぎ、も、
 阪主、不、渡、し、ぬ。我、們、が、曾、不、捉、ら、れ、て、
 妙真、の、俱、不、裳、を、褰、け、り。幾、間、も、
 簾、吊、渡、せ、し、奥、の、一、室、不、果、し、て、
 う、が、迷、し、短、刀、拔、持、て、自、殺、せ、り、
 那、時、遅、し。這、時、速、し。妙、真、曳、の、
 單、節、

ら。この、あ、り、ま、ま、と、見、て、
 禁、れ、河、堀、殿、も、親、姑、姫、も、吐、嗟、と、
 妙、真、の、抑、足、何、人、を、と、誣、り、
 奴、家、毎、の、里、見、の、家、臣、大、江、
 節、を、結、り、他、號、雪、代、四、郎、の、
 降、人、千、代、丸、圖、書、助、の、舊、臣、
 保、曾、不、と、之、這、城、内、の、留、
 今、日、の、水、戰、寄、隊、敗、北、の、
 我、王、君、里、見、殿、仁、者、人、
 虐、を、あ、の、り、や、憶、ふ、今、日、
 予、之、自、殺、あ、る、義、成、の、本、
 意、あ、ら、ん、枉、て、止、り、ぬ、
 送、代、の、諫、論、し、持、る、短、
 刀、

挑放せば河堀殿も親姑姫も其も小推方りち泣て原來是汝等と思ひける敵
 方の間諜見多ありけるよと事向ふ詞も果敢折る四下不响く空銃小大家耳を串れて
 吐嗟とるる駭て俱前顔を信と見る隔の襖戸蹴開て見れ出る兩個の猛者あり
 是則別人るる亦那朝時枝太郎天岳餅九郎をわける但見る打扮一對の
 身大肚甲胄釘脛衣戰笠眉深小髯昨反らして訛聲高く喚る中。知事是意
 中人達豫の目并粗詰を館打負ひりく里見の軍師逆寄せられて夙夜城の
 程もろし我情人達を擁護ひて且大塚の城小退れと思ひし素ねおの見えさるる
 故ありけれ奥政入り多々何事やらん這里小造りて我門王張亦更りち河堀殿
 姫上とのまご出もゆききして這里在る奇貨る哉元自里見小降参りて這二
 方を獻らせり咱も兩個一城の主小做れも易かべ一開して和女名と妻ありて且る
 夕る小長視る鄙語小云牡丹餅で殿を打る榮耀の上装儀をり愛とた夕る

疾引立て一緒にらるる備詩の語のと不の字といひ可受さ及憎さる百倍入る
 撃殺して然而余後小里見小降れん心も不さるる合むとやと雨聲俱小昔めく喉は小暗
 かき準備の銃砲又細くも小く合直して銃杪其方小推向れ吐嗟と驚驚く妙有と
 俱小曳子号胞姉妹其身を看小河堀と親姑姫と皆ありて戦れぬ聲慌々
 小和主們のものと借りて這二方を俱一もわらんや況筋多死不為遙奔矢
 銃をりて權まとも誰ら枉て徒死とらをも果敢枝太郎と餅九郎の脚踏鳴く
 眼と瞋ら聲又昔く女流小似はるは大胆無敵其義さるる思ひ知せん覚期をせよ
 罵りて火盆を鑽らんとせ程小後方小覗ふ一個の雜兵忽地聲を震立て白物
 と喚林小枝馬見たる枝太郎と枝果敢多く眉尖刀小細項丁と艾られ軀小控
 と仆れ小是中駭く餅九郎も俱小見たる程しもあさる又只件の雜兵が入る眉尖
 刀小右の腕をならんと艾られ持る銃砲共侶小忽撲地と雜落されて殿居小



八代傳七郎卷四下

廿二

大奥室儀



八代傳七郎卷四下

三十四

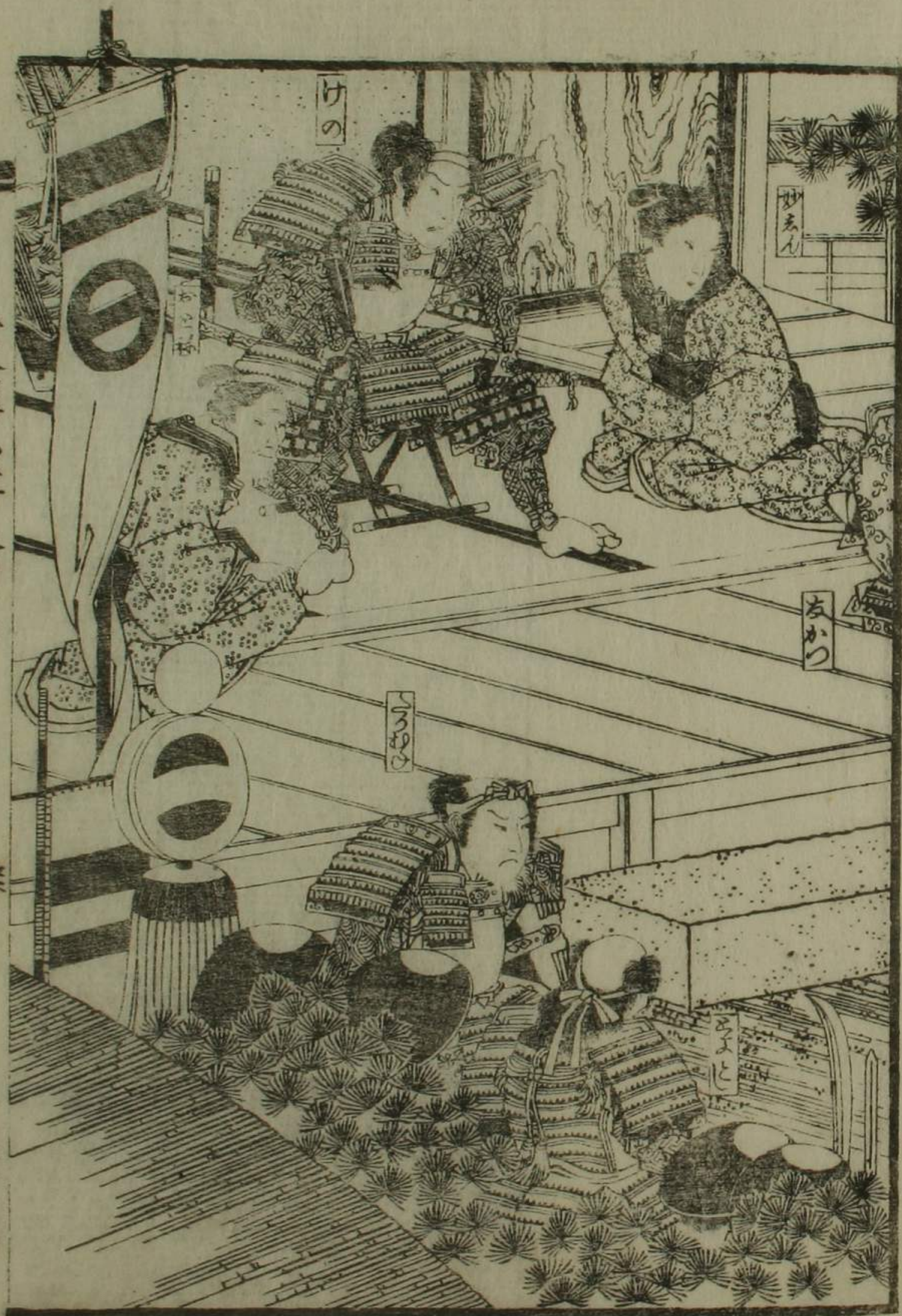
五十子の城小
四勇婦大功を
成を

權と平張り思ひける今這幫助又うぢ驚れ且歎ふ曳子胞姉妹如真共
 侶不聲をうけ料らざる危窮の助劍抑身何人をも向ふ雜兵と戰
 び脱棄るをこれ別人なり正音音音とありければあまのこむら小妙
 真曳の單節の満面矢多々鉄ひ先二口の短刀を輕小納め身と起し
 卒這方へ請薦れ音音の眉尖刀搔遣りて跪然却りぬ奴家と信り打
 拵し這城内小潛入りし特所所以あるれども丹後後を告げし既小野方の
 全勝を水路の閉戦の多々大阪主の一隊の雄兵當城推寄來て正門の既
 敗れりと告げぬ妙真曳も多々いふ歎かまき安心て原來事皆便宜なり這果
 在る兩夫人の定正主の奶々君と新婦君とをとりあられ城陥りぬと告げし
 多々ある程我門料らざる小來てやうな合禁たり折那技太郎と餅九郎が
 乱を利と做さ不忠の本姓刺奴家姉妹を挑むむと火銃をとり權せし防
 ぐ

御のありし折りぬ身武者打拵多々件の人等推果あり今小肇武
 勇の拵愉快を信るれと告げぬ音音の恭しく河堀殿と親姑姫と向ひ額を
 衝ぬ奴家の里見の一家臣姥雪代四郎が妻音音を信り目今軍師大阪毛野
 が當城を攻懲まとのも但君の側る每人を鋤除え為の御達を苦しめなる
 必然れども這里小在する軍兵の乱妨も測りがたふされ權且御園へ去る誘
 藤原河堀殿目と推拭多々年來仕る女房們已う自然感逃去り有信瀬立
 り若くは及て敵の妻撃女見不伴れぬ鈍まきとち託め親姑姫も六潜然と泣沈
 んて立難ぬを音音妙真曳の單節の尉心め却後園の那方小見ぬ余亭とそ
 俱しおけり姑且して給事の女房の聊忠心ある者十名許返り多々河堀殿と親姑
 姫を去る小雜色とむらたが二人も斬殺され俯ふの那二方の見えぬわら
 驚れ且怕れて又外面退りけり介程小大阪毛野が先鋒る小森但一郎高宗千代九

圖書助豊俊の敵の頭人菲見利金太門が逃ると迂々二の城門の士卒と馳て攻戦へ。城の頭人箕田取蘭二兵頭細阪四郎布留川綾市カと裁せて隊兵を擧げんと先途と防戦其兵四五千あるをり。左右多く攻め破れ毛野の馬上自正を見て弓矢前刺多く標と射る。矢局錯を取蘭二の肩尖丁と射られぬ堪馬より落しけり。是を驚く城の士卒の備と乱と激と退くと透る細合先鋒の頭人高宗豊俊の浦安友勝本曾季元士卒と薦めて二七二十一の攻伏攻伏乱入る。然りも烈に大刀風城兵防ふ力多。才小金塔児取蘭二の肩小旗々後門投て咄と頼れて逃走れ。細阪四郎布留川綾市心るをも逃走る。躬方の士卒小誘引れ。後門より毛落亡けり。憊而大坂毛野胤智の一舉小城を攻落し。馬を本城小乗入る。敵一人もあらず。権且小屯して高宗豊俊を召てい。我聞當城の定正王の後母河堀殿と朝寧の夫人親姑姫あり。又妙真也。軍節の

上も心許る。夙く其在処を密ねて宜く勅り慰むべし。但那五婦女子のまら。女流の都て罪る。必る驚ろ。一所小集合て扶持を。且宝藏と倉庫へ我の自封せ。和殿們もよく心を属て士卒の乱妨を教言め。と急ぐ。高宗豊俊相心ゆ。鮎て士卒を部して城中隈多く巡索を。その時自餘の士卒の庭上小籠を焼て二の城門を守りけり。憊而初更の左側。小本林但一郎高宗の其隊の士卒十名許と俱小音音妙真を得て来て。来由と胤智小報より。當下毛野の先妙真もうち向ひて。什麼妙真刀自曳多。軍節の恙る。や音音媪の艦小送されて。這里不在ら。と思ひ。小針脛衣小身甲へ故を。その甚。麻も。と向へ。妙真先答る。あふ在りける程の。又技太郎餅九郎が。變り軍節。即不掛想せ。と始。且。や。御河堀殿と親姑姫の自殺まぬ。んと。時憶も。參。合。其死。林。折。枝。太。餅。九。が。密。を。主家の乱を。已。が。利。中。て。刺。曳。多。軍。節。を。挑。多。従。は。れ。火。銃。と。權。し。之。逼。り。



八代将軍の御下

共六

大坂の陣



程不料らむ音音の刀自の補助もよて万人を殺し果しぬべし。俱不件の両柱の
 御達を勅し慰心宣し。園の茶亭も退くゆりと一五二十と速知され。音音の亦大
 茂林の澳邊邊を仁田山晋六が柴新船を計りて焼亡せし事の始より。那身へ海没
 火を免れて。酒にて大茂林濱に造り。折海苔七夫婦を救れ。事の趣を告げて
 又のやう折る扇谷の残兵の咸結紐れて還り来ぬ。其艦流れ寄る。他を漫
 哄誘して。這城内に紛れ入り。不身並不勇士連の推續して。當城に攻入りぬ。と知
 ざり。と。大の刀自と曳る。單節を索ひて救出さす。思ふの故。事の紛れ。後堂深く
 潜び入り。不今妙真刀自の告げぬ。如く件の兩個の千人を眉尖刀に被け。其除けて
 河堀殿と親姑姫と。茶亭も俱ら共侶不事の鎮ると俟たれ。と報るを毛野の列々
 と。听果て感して。已まむ憶ぎもむと。拍鳴りして。果せるる勇婦の進退孰れ。忠義我ら
 ざらん。做し。沿て。各皆妙人河堀殿と親姑姫の喘りて自殺ある。我両館の御仁慈

も。徒事とる。まも。長く。怨を結れぬ。那死を極ひまらせし。時。丁て。其功。拔華
 賞とべし。我の見。参ま。げれ。女儀。不夜。分の。憚り。あり。先後。堂。返。入れて。刀。自。等
 宿直。し。是を。衛り。ね。事の。起。本。不。保。質。不。捉。れ。刀。自。等。の。主。と。做。り。て。反。く。兩。個。の
 保質。と。捕。獲。し。不。用。意。也。造化。精。妙。亦。奇。人。縦。定。正。王。殘。兵。を。り。く。當。城。不
 推。寄。來。て。も。復。さ。す。く。欲。さ。る。も。河。堀。殿。を。城。樓。不。升。り。て。那。罪。と。責。て。拒。る。我。兵
 僅。不。百。人。も。り。も。他。何。と。も。ま。ま。と。い。ひ。高。宗。と。見。ら。る。守。城。の。准。備。を。示。す。折
 々。千。代。丸。圖。書。助。豊。俊。の。落。後。れ。る。綱。阪。四。郎。と。有。人。唐。人。們。を。生。拘。り。結。紐。り。く
 難。兵。不。幸。せ。又。當。城。不。給。事。の。女。房。十。名。許。を。捕。禁。せ。腰。索。被。け。て。得。る。末
 々。隨。即。毛。野。不。報。て。の。や。う。這。者。毎。逃。惑。ふ。猶。城。中。不。在。り。く。捕。捕。て。ぬ。其。姓
 名。の。箇。様。と。言。詳。不。許。され。毛。野。不。听。く。鞠。問。さ。る。綱。阪。四。郎。が。い。や。う。小。可。々
 二。の。城。門。を。攻。破。れ。し。時。河。堀。殿。と。親。姑。姫。を。杖。出。し。ま。あ。ら。せ。ん。と。思。ふ。ふ。り。て。逃。ゆ。り。さ

らむ。這と母と共保の立願れて存りけり。見出されて捕捕られぬ。女房們も俱にお
 ぞ。櫛高の敵乱入りぬとゆえ。時朋輩々と共保の慌々走り平かど。御母君と姫と俱
 ちちのうせんと思ひ。我々十名の立離れて。後堂へ還り來りける。二方のをりまを
 斫り。兩個の雜兵の屍骸あけられ。怖れて又外面へ走りぬ。猛者達も趕れて捕へれ
 けり。とこそく陳まると。毛野の听の點頭て。あはれ。是の男力女の箕田取蘭二門
 立勝りて。聊忠心ある者へ俱に縛の索を釋して。妙真立音音。豊後守節と
 相共。兩個の女君お仕へあり。其頭人の浦安生。二百の老兵を従へ。宣後堂守
 るべ。但細阪四郎と廩人們の事の猶思ふ。われを儘にして屏居め置られぬ。あ
 餘の事の憊々と言送ゆる。宣示せ。友勝の妙真立音音と俱に女房を受合せて
 老兵許す。從々のをぞ。後堂へ赴け。豊後守又細阪四郎と廩人們を并々儘
 隊の兵毎々牽立させ。外面投て退りけり。憊而當晚子二刻左側小湊目堅

宗の援岡猿八範内葉四郎と俱に毛野が進退不從ひ。既去向を知り。こぞ
 生口大石憲儀と隊の若者毎々牽せ。五十子の城小來しければ。毛野の則城の正
 廳の局の内へ召入れて。對面を登時。堅宗の櫛高河崎矢口の間河原。定正主僕
 僅に二騎道節が虎口と進れて。那里津りと討めける。折目。伏兵一度小起。て矢
 場へ傳ふ。走り。定正主僕。悲を請て。言葉べくあはれ。則主僕の願ひに任
 せ。定正の自前。首級不換。頭髻を受合。命を允。且事の照驗の
 為。憲儀と領て來り。故。定正。範内葉四郎。一百個の隊兵を分ち。他を送
 らせし。を報。葉四郎。又巨田助友が快船。舟ち乗。折り來ぬ。小逢。かど。則助
 友。と。不任。却。定正。那隊。小邊。與。河崎。か。の。堅宗。と。一隊。小。逢。ら。は。は。
 事の趣を演述。又堅宗の回。謀見。と。風。知。り。ける。道節。一隊。と。定正。を
 趕。鼓。ける。折。巨田。新。六郎。助。友。が。僅。に。五。百。の。隊。兵。を。り。く。道。節。を。防。び。戰。ひ。事。の

光景をうつる隨ふ告ふけり。當下毛野の儼然と憲儀ふらち向ひてやとれ大石生和殿
 親子の管領家の元老なりて其君と輔けたり。賢良たる事と要せられ
 那惡の逢ふ。名非理の大兵を起させ。罪を隣國と畧す欲は故に十萬の
 衆ありとのへとも。小敵小敷も敗らざる。終に其君辱められ其身を傳囚ふ做らざる
 まごも我君里見殿に免禮智の心をり。只其暴虐を防ぐの。今全勝の勢あり
 乘して人の地を畧し人の城を捕ふありとも。我當城の衆を寄し只其惡を懲らざる
 むの故に御小我伏兵をり。管領と夫口河原の綱籠れとも。胡意饒して虜小做さる
 是則我君仁義の本意なり。然も大職に那人を楚囚小做さると思へば。和殿
 其の美を知りてやとのれ。憲儀答へ由り。黃髮と嘗言啞子の像く口を合ふ
 眼と睜り。のりく。竟に忍びぬ。姑息と聲細や。軍師我実罪あり枉て放
 免を願ふの。と勸解れ。毛野の小溪目小悠々と分付。却憲儀を牽立させ。

升が儘獄舎へ遣りけり。倭而又毛野の小森高宗小談するや。我憶ふ大石天
 塚の城を守る士卒等の管領大敗北。當城も敵小捕れと傳へ。必や
 駭怖と。城を棄て走るべし。然らば那空城を我より守らざり。野武士山賊の
 寓者あり。和殿を木曾三助と共侶。一千の隊兵を將。夙く那里へ赴き。
 箇様々々小相計いたすと。具小ありを。高宗少く其美羨り。必
 但一大家の城よりも。忍岡あそ要緊する。其の美誰何と請問へ。毛野と莞尔
 とうちみ天々然る。忍岡の城の道節が捕るあり。御小大山の定正王を退代
 夫小巨田助友が援兵小柱られ。遂に敵小漏せし。小あり。然ると今當城を我逸早く
 拔たれば。大山必性起て。忍岡へ推寄して。那城を捕るるべし。余ら那里の敵城の
 他小讓ら。思ふ木曾生も。這意と。俱小大塚へ推寄り。當城小敵の棄
 置に。冷飯処々小あり。ん腰戰飯を送る。急せ。高宗奉元敬服

あて。當晩一千の士卒を將々。悄地の城を立出さ。大塚へとくいを死けり。介間も大阪
毛野の今日の勝軍の事の趣を洲崎の御陣へ告禀させんと。祐筆を召上せて既
其美及及ふ程に雜兵も炊火果る。戰飯を薦めると。左右も程ふ天の明け
正門を衛る士卒等が。案内をあら。大法師の谷山より出て來ぬと。噂えり。毛
野のみならず立迎へ。上坐を推升し。且那奇風の大功を稱賛ある。大の秋ぶ氣色を
愀然として嗟嘆不堪。姑息して。各軍師昨日の勝軍は是賀ま。死に似これども我
年來の出家の功德の竟に墮獄の悪趣に作り。抑昨日の火攻に敵兵の焼死
せ。若者幾千百あり。甘む狹憐む。死にま。甲も乙も奇王をりて。風を起せ。我罪
重る。已るくと怨むるを毛野の听り慰めて。師父の自遣に然るころ。皇親の諭
禀を。よく悪を懲ま。佛の方便時宜ふ。よして。殺生も反。佛意に叛き。は。師
父の大功仰ぐ。小子今快船をも。洲崎へ使をま。せん。と。師父をも載て。送る下。

先齋をま。せん。との連日山蟄の疲勞を暨し。ゆひ。と解れて。大の領る。麻の薄
黒の法衣袴の淨衣の垢滌し。脱更。其を丸繰る數珠の外。其所作も。りける。恁
而。主客の早饌果て。毛野の範内。葉四郎を。身邊近く召きて。汝。大師の俱
七八個の雜兵を従へ。洲崎の御陣へ参り。去向の水路を快船を。却言上
趣の箇様々と。宣教を。呈書一通と。定正の頭髻と。皆。自封と。遞與
せ。葉四郎の。果。事の準備を。程。大の又毛野。問。谷山。在
る。日。且大村大角の。又水路。筋方の勝軍。是。五十子の城。さ。毛野。が。風。攻
落。那。里。の。風。聲。不。知。り。船。を。借。ん。と。思。ひ。當。城。小。末。由。を。云。云。と。告。る。と
其。其。言。佳。境。入。り。ま。せ。時。葉。四。郎。の。准。備。果。て。卒。と。大。を。促。せ。大。を
毛。野。等。別。を。告。げ。身。を。起。し。葉。四。郎。等。引。れ。俱。柴。浦。の。快。船。の
ら。乘。り。洲。崎。を。投。て。漕。せ。け。然。り。又。朝。大。阪。毛。野。の。妙。真。立。音。音。浦。安

友勝もと案内ある。則後堂不赴て河堀殿と親姑姫不見矣。其事男女の
禮を乱さむ。詮者所定正の任人惑はれる。這回の軍旅の非を擧げて義成の寛
仁を説示し且ひやう。臣等當城不離を寄し敢殺戮を上目とある。あつた。只官
領の側る。任人等を鋤除して両家の和睦を揣らむ。然其間両御達を容房へ
程一まわるとべけれども。水路の風濤の怕れり。まきれば猶も儘る。わけ。い。わ。ん。も。
這里小坊の妙真音音。奥多軍節。皆是忠信貞実なる。女毎み。御倍堂。あ
らる。の。他。年。來。給。事。の。廿。房。も。必。御。心。安。く。べ。と。言。叮。寧。不。耐。心。て。是。より。の
後。朝。夕。不。安。否。と。訪。さ。る。事。由。る。且。生。拘。の。内。中。小。庵。人。由。わ。れ。這。若。毎。を。釋。饒
老。庖。厨。の。事。と。做。さ。る。六。河。堀。殿。と。親。姑。姫。の。三。食。由。生。平。小。易。ら。又。妙。真。音。音
若。が。里。見。殿。の。仁。心。を。言。小。觸。れて。説。出。て。定。正。主。の。愆。を。云。云。と。論。云。一。六。河。堀。殿。の
親。姑。姫。も。是。より。て。稍。覺。る。左。右。も。任。人。の。不。忠。を。憎。む。ひ。ける。有。信。れ。る。毛

野の士卒小下知して城の四門を守らる。千代九豊俊浦安友勝小漢堅宗後
圓猿八等と頭人及小頭人。と介程小隣里近御る。御士豪民其客の里見の
仁政と慕ふ者招きよ。取次ひ來て請ふて軍役不達。欲する者千をりて數ふ。な。り。
あ。と。の。て。大。阪。軍。威。の。揚。馬。少。草。木。由。麻。非。可。る。れ。次。の。日。毛。野。の。馬。由。ち。踏。り。二
三百の隊の兵を相從へ。城外四境をうち巡る。民の訟を听定む。小御の故老。尊
一。食。壺。將。水。て。飲。ひ。迎。さ。る。る。悠。而。多。く。日。比。と。喚。做。を。御。盡。處。一。座。の。小。道。場。あり
けり。前門破れ傾。松の垂枝。掩れ。れ。も。鉦。鼓。の。音。近。く。響。え。て。夕。讀。經。の。鼓。耳
ま。る。を。御。導。人。毛。野。小。告。て。ある。日。比。の。宝。傳。寺。と。喚。做。した。る。昔。舊。院。中。の。ひ。が。這
寺。内。の。扇。谷。の。一。忠。臣。何。難。權。佐。守。如。の。墓。ひ。こ。の。公。を。毛。野。う。ち。少。く。馬。を。駐。め
寺。内。を。見。入。り。て。原。來。是。要。ある。人。の。墳。墓。を。卒。立。寄。り。廻。向。を。せ。ん。と。の。ひ。が。馬
より。下。立。く。馳。て。杖。こ。入。る。程。小。士。卒。平。都。て。鎧。を。建。馬。を。敷。示。る。門。前。小。存。り。二。二。の

老兵従ふ。玄園の噴門の一個の沙弥をきて。うち敬篤たる面色あり。をる左
見右見く。那里よりぞと尋ね。毛野の自杖を向いて。咱等は是里見の軍師。大阪毛野
胤智之當寺。河鯉權佐翁の墳墓ありと。知らず。拜奠の爲に立より。西の
案内を憑む。このつれて。沙弥の阿と應へ。遽しく又内入りぬ。姑且して。同道墓と
浅青磁の香爐とを。右に推乃へ。左に引提て。復遠く出く。考誦とをくり。木
履を穿て。先を立ければ。毛野の引まき。本堂の傍より。空都波安牆ある。外に造れば。花も
丹楓も。もる。冬の柳の樹の下。只一塊の土。饅頭わて。一箇の空都波安と建。こ
の。其墓表の石。わ。是る。河鯉翁の墳墓あり。そ。沙弥の。花を。右に。香爐を
居て。傍より。懐より。鈴舎。出。うち。鳴。偈を。唱念。佛。と。那廻向を。を。帮助。ける。登
時。毛野の。後。方。る。老兵。を。と。見。え。り。我。今。故。人。を。祭。ら。ま。く。欲。さ。る。猛。可。の。事。や。
祭文の。儲。り。文。の。花。之。言。い。実。に。只。方。寸。の。懐。に。と。述。て。誠。を。盡。さ。る。亡。靈。も。受。ん

我松を笑ひるせと。といひ。親を改め。墓に向ひ。香を焼き。跪き。合堂
あり。聲朗小吟誦。あけり。其意。忠信。中。て。那死を。悼。と。其言。簡約。あり。那
子を。憐。み。誠心。誠意。より。亡。靈。を。慰。め。夜臺の。眠。を。覺。ま。不。足。下。祭。畢。り。退
け。沙弥。の。又。先。を。立。ま。客。殿。へ。案内。を。あ。茶。を。着。め。る。と。程。小。住。持。の。老。僧
立。出。て。毛。野。小。對。面。し。姓。名。を。問。來。意。を。尋。ね。毛。野。又。告。る。と。初。の。如。く。且。の
やう。那。河。鯉。翁。の。咱。等。一。面。の。交。り。他。の。扇。谷。の。孤。忠。や。々。反。て。枉。死。の。悼。り。其
子。孝。嗣。亦。是。忠。孝。も。反。て。奸。黨。小。誣。られ。死。刑。小。逮。び。免。れ。され。猶。幸
る。て。存。亡。今。小。詳。る。と。我。今。五。十。子。の。城。小。在。り。民。の。憂。苦。を。解。ま。欲。ま。知
那。親。子。の。如。死。の。忠。義。を。後。世。小。傳。ま。の。あ。へ。速。小。墓。石。を。造。建。く。祠。堂。料。を
寄。附。ま。し。且。親。小。當。寺。の。願。願。破。及。分。宜。く。修。復。致。ま。し。其。財。用。の。形。の。如。く。明。白
城。内。之。遺。與。ま。へ。あ。美。を。あ。ら。ぬ。ゆ。ひ。と。言。叮。寧。小。解。示。し。硯。を。請。ま。り。自

證文一通を書寫めて取られ住持の歎ひ受攸めく。却ひやう。宜し御意の如く河
 鯉生の異小枉死の折一旦城陥りしに當寺の檀越るねも其子佐太郎主親の
 屍骸を昇入れさせ。安葬の爰を薦れ。則執置れ。其の管領家へ憐れ。公まご
 墓石を建ざりし。小里見殿施主小做りゆひて我寺をしも修造ある。幸甚しくひるれ
 仰あらしめゆひぬと。応て又茶と肴め。果子と薦めて管待しけり。憊而次の日。空傳寺の
 住持ハ一二の徒弟と從。五十子の城。未だければ。毛野ハ則友勝豊俊等。小件の爰を言
 示して住持。小袋裏の金子を取らせ。ゆひて修造を。そが。あ。守如の墓石。ハ。寺。程
 る。造り更て昔。小。ゆひ。五十子の民。毎。守如の枉死。孝嗣の。其。罪。且。屬
 不平。小。思。ハ。毛野。が。是。善。政。を。歎。さ。る。け。あ。是。後。の。話。説。之。畢。竟。大。阪。亂。智
 五。十。子。の。城。を。捕。り。て。又。道。節。が。進。退。甚。麼。を。開。ら。又。下。の。回。小。解。分。る。と。聽。ね。り。

南總里見八犬傳第九輯卷之四十六終

